

第7回 AI戦略会議 議事要旨

1. 日 時 令和5年12月21日(木) 9:00~9:25

2. 場 所 総理大臣官邸2階小ホール

3. 出席者

座 長

松尾 豊 東京大学大学院工学系研究科 教授

構成員

江間 有沙 東京大学国際高等研究所東京カレッジ 准教授

岡田 淳 森・濱田松本法律事務所 弁護士

川原 圭博 東京大学大学院工学系研究科 教授

北野 宏明 株式会社ソニーリサーチ 代表取締役 CEO

佐渡島庸平 株式会社コルク 代表取締役社長

田中 邦裕 さくらインターネット株式会社 代表取締役社長

山口 真一 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
准教授

政府側参加者

岸田 文雄 内閣総理大臣

高市 早苗 科学技術政策担当大臣

松本 剛明 総務大臣

盛山 正仁 文部科学大臣

齋藤 健 経済産業大臣

石川 昭政 デジタル副大臣

村井 英樹 内閣官房副長官

他

4. 議題

1. 広島AIプロセス及びAI事業者ガイドライン
 - (1) 広島AIプロセスの報告
 - (2) AI事業者ガイドラインの報告
2. 来年のAI戦略会議の課題について

5. 資料

- 資料 1-1 広島 AI プロセス資料について
- 資料 1-2 AI 事業者ガイドライン案 概要
- 資料 1-3 AI 事業者ガイドライン案
- 資料 2 AI 戦略会議の今後の課題 (案)
- 参考資料 AI 戦略会議 構成員名簿

6. 議事要旨

○ 松尾座長より、本日は広島AIプロセスの報告、AI事業者ガイドラインの報告及び来年のAI戦略会議の課題について議論の範囲にしたいとの説明があった。次に、議論に先立ち、高市科学技術政策担当大臣より挨拶があった。挨拶は以下のとおり。

【高市科学技術政策担当大臣】

今年の5月に岸田総理のリーダーシップの下、AI戦略会議が立ち上げられ、G7広島サミットでは広島AIプロセスが始まり、以降、生成AIに関わる様々な課題に対して皆様方に迅速に対応していただいた。広島AIプロセスの成果について本日までご報告頂くとともに、日本のAI事業者ガイドライン案、またAI戦略会議の今後の検討課題に関してご議論をいただく。

先月29日には今年度の補正予算が成立し、AI関連予算として約3,000億円が確保された。また、来年度予算の政府案も間もなくまとまる予定。内閣府としても、引き続きリスクへの対応とともに開発力の強化や利用を進めてまいります。

○会議の進行の関係上、松本剛明総務大臣、盛山正仁文部科学大臣、齋藤健経済産業大臣、石川昭政デジタル副大臣の挨拶は書面にて机上配布となった。それぞれ、内容としては以下のとおりである。

【松本総務大臣】

「広島AIプロセス」に関しては、12月1日「G7デジタル・技術大臣会合」において、「広島AIプロセス包括的政策枠組み」と作業計画について合意が得られた。来年以降も、作業計画に基づき、他の国や地域、国際機関等と協力しながら「広島AIプロセス」を更に推進してまいります。

また、AIガバナンスの相互運用性を推進する観点から、「広島AIプロセス」の成果を踏まえ、経済産業省と連携して「AI事業者ガイドライン案」の検討を進めており、年度内に策定・公表予定だが、その後も随時更新してまいります。

さらに、生成AIに係る偽情報等について、現在、総務省では、デジタル空間における情報流通の健全性確保に向けた検討を進めており、これらの検討結果もAI事業者ガイドラインに

も反映するなどし、安心してAI開発、提供、利用を進められるよう取り組んでまいります。

最後に、我が国の開発力の強化に向けて、NICTの保有するAI学習用の良質な日本語データについて、年明けを目途に国内のAI開発事業者等に対して提供開始する予定である。こちらにもしっかり取り組んでまいります。

【盛山文部科学大臣】

文部科学省ではAIの開発力強化に関して、今般成立した補正予算にも約381億円計上するなど、取組を強力に進めているところ。特に、AI分野及びAI分野における新興・融合分野については緊急性の高い国家戦略分野として、当該分野への若手研究者や博士後期課程学生へ十分な人件費や研究費を支援することで人材育成を強力に推進してまいります。

今後、国際的な動向も注視しつつ、我が国の研究力・産業競争力を強化するため、国立情報学研究所や理化学研究所などアカデミア・国立研究開発法人の総力を結集し、AIの開発力強化や人材育成を強力に進めていくほか、AIの安全性強化にかかる取組にも積極的に貢献してまいります。

また、AIと著作権に関しては、昨日20日にも文化審議会を開催し、クリエイターの懸念の払拭や、利活用に係る著作権侵害のリスクの最小化に向け、議論を深めているところ。AIと著作権に関する考え方の整理に向け、引き続き検討を行ってまいります。

【齋藤経済産業大臣】

私自身、法務大臣時代に、契約書等のレビュー等で、作業効率を大幅に効率化できる、AIを含むリーガルテックの可能性を実感。これに限らず、様々な分野における産業競争力の向上のためには、AIのポテンシャルを最大限活用し、人間が創造的な業務に集中できるようにする必要がある。

現下のAIの変革期において、安全性・信頼性に留意しながらも、政府としてスピード感を持ってあらゆる取組を進めていくことが重要。

将来にわたってイノベーションを創出するためにもAIの国内開発力強化が急務。官民による大規模な計算資源の更なる整備とともに、基盤モデル開発の支援などを進める。

また、AIの利用促進に向け、厚生労働省とも連携して、生成AI時代の人材育成を強化していく。

こうした支援とともに、リスクに対応するルール作りも進めてきた。今回、総務省とともに発表するAI事業者ガイドライン案は、あらゆる事業者がリスクに応じてAIを使いこなせるよう後押しすべく作成したもの。

この間にもAIを巡る環境は大きく変化を続けている。引き続き皆様の御意見を賜りながら、AIのもたらす機会、リスクに対応していきたい。

【石川デジタル副大臣】

AIの技術は日々進化していく中、政府のAI戦略は、安全に留意しつつもスピード感を持った対応が求められるところ、関係府省庁での連携のもと、AIの活用や課題への対応に向けて引き続き取り組みを進めてまいりたい。

政府内における生成AIの業務利用に関しては、生成AIの活用により業務を効率化・高度化するための取組が進められているところ。デジタル庁では、各府省庁において安全な基盤上で生成AIを扱うことを可能とする技術検証環境を整えたところであり、生成AIの業務利用を推進するユースケースを創出するとともに、活用に向けた課題の整理・分析等を行ってまいりたい。

また、国内外を通じて、人間中心の信頼できるAIの構築に向けて、IAP（Institutional Arrangement for Partnership/パートナーシップのための制度的アレンジメント）の枠組みの下でデータ越境移転に関する個別の課題を解決するプロジェクトを実施するなどDFFTの具体化を推進し、AIガバナンスの前提ともなる国際データガバナンスの形成を推進してまいりたい。

○次に、松本総務大臣より広島AIプロセスの報告が、松本総務大臣及び齋藤経済産業大臣よりAI事業者ガイドラインの報告が、松尾座長より来年のAI戦略会議の課題についての報告があり、その後、各構成員からそれに対する意見が述べられた。主な意見は以下のとおりである。

- ・国際的な取りまとめと国内ガイドラインの双方について、様々なステークホルダーから多様な意見を酌み取って反映することは容易でなかったと思うが、短時間でここまでの成果を出していただき年内でここまで到達できたことは本当に素晴らしいと考えている。

- ・ガイドラインについて2点だけ申し上げる。1点目として、来年からいよいよパブコメ、運用フェーズに入っていくが、大部のドキュメントということもあり、これをどう使いこなしていくかを事業者へ周知することについて工夫していただきたい。2点目は、ガイドラインアプローチの長所として、今後も柔軟にアップデートしやすいという点があり、また、今回は本編と別添に分ける構成を採用したことも、とりわけ別添の更新がしやすいような構成上の工夫の表れといえる。その辺りも生かして是非不断にアップデートしていただきたい。

- ・AI戦略会議が始まってから7 か月ほどだが、信じられないスピードでたくさんの物事が進んだなという実感を持っている。これもひとえに岸田総理を始め関係閣僚、また省庁の皆様がこれまでにないスピードで動いていただけたことが何よりの理由だと思っている。政府の本気の状態を見て、アカデミアの研究者も、また、民間事業者も我が事として捉えなければならないという、その自覚が芽生えた半年余りだったと考えている。非常に重要な取組のスタートラインにたくさんの人が立っていただけたと思うが、今回のガイドラインを始め、正しくスタートラインからゴールに向けて走る準備がまだまだ必要だと考えているため、引き続きご支援のほどよろしく願います。

- ・非常に短期間に今回のガイドラインがまとまったこと、関係者の御努力に敬意を表したい。これは重要なマイルストーンになると考える。広島プロセス以外にもOECD、GPAI、また、EUのAI ACTが先週、大枠合意になった。また、UKのAIセーフティサミット、国連のAIアドバイザリーボードといろいろ国際的なアクティビティが非常に活発化している。特にUKのAIセーフティサミット及び国連のAIアドバイザリーボード、この二つは私も参加したが、ガイドラインや法的な枠組みが非常に重要となっている。それを無視する、又は意図する/しない形でバイオレーションするということも当然出てくるが、これに対して強力なAIを作って対応する、対抗していくということも必要。また、非常に多様な地域のデータを展開してグローバルサウスをサポートする、又はそのリーダーとして日本が展開していくということも重要と考え

る。産業面でみると、日本企業において海外でのオペレーションがかなり多くなっており、日本語だけではなく、そのような地域のリソースも一緒に作っていくことが重要になると考える。

- ・日本がエンタメ大国で居続けるために、AIの活動は非常に重要だと考えている。今回のガイドラインはクリエイター、エンジニア、AI利用者全ての人に対して配慮されており、非常にバランスの取れたものだと感じた。

- ・今後はクリエイティブの定義やクリエイティブ分野におけるビジネスモデルというものが大きく変わっていくことが予想される。作ること自体のハードルがどんどん下がっていくため、アイデア次第でクリエイターになれる。多種多様なエンターテインメントに触れられる環境にある日本人は、世界の中でもそのような素質を圧倒的に持っている、よりエンタメ大国になり得るだろう。そのためにAIをどのように活用すればいいのかについてしっかりと戦略を練っていく必要があり、来年はそれを議論していきたい。

- ・短期間にこれほどのアウトプットが出たことは大変素晴らしいことであり、また、日本がAIに注力しているということが国内外に伝わるような話であると考えている。

- ・広島AIプロセスについては、国際的な議論をリードされたこと、大変素晴らしいと思うので、今後もこういったリードを継続するために国際的な協力、連携の仕組みを作って、その議論を重ねていくことが大切だと感じている。

- ・国内のガイドラインも素晴らしいものができているため、この周知・広報、また実効性の検証が今後必要。

- ・今後の課題というところで申しあげると、偽情報問題が非常に重要。政治家若しくは紛争、戦争、そういった関連の偽画像、偽映像が拡散しているということは周知のとおりだが、それだけではなく、話題になったニュースに関連するAI生成画像がどんどん今、出てきている。こういった中で実効性のある対策ということを考えることが非常に重要である。

- ・ガイドラインに関して、大きな枠組みができたということで、これをどのように実践に落とし込んでいくのかというときに、具体的な事例の検討を来年度以降、行っていくことが重要になってくる。例えば、透明性とは一体どういうことなのか、適正な利用の「適正」とは一体どういうことなのかなど。分野や使われている文脈などによってさまざま解釈が可能であり、それに対する裁量があるということはメリットであると同時に、事業者としては具体的にどうすればいいのかが分かりにくいということにもつながってくる。その柔軟性を生かしながら、様々なケーススタディを積み重ねていく、これは正に個別のプロジェクトということで必要になってくる。今後設立されるGPAIの東京センターや様々な新しい研究機関での活動の蓄積が、

日本国内だけではなく、海外との連携という点でも非常に重要になってくる。

- ・海外との連携というところにおいても、先ほど国連の話があったが、中間報告が年内に出るということで、早期に連携していくことが重要である。

- ・広島AIプロセスについては、岸田首相始め皆様の御尽力もあり、実際に海外からも私の元に非常に高い評価が届いており、敬意を表したい。

- ・あまり知られていないが、最近は海外のAIスタートアップが、日本のオープンで寛容なAI環境と人材に魅力を感じて、どんどん入ってきているという状況がある。国が進めるスタートアップ施策とAI開発強化という二つの戦略が非常に親和性が高い。生産性を向上させて給与を向上させていくことに直接つながると思っているし、国富を増大させるために強力な武器だと考えている。

- ・これから30年ぶりに国の成長が復活すると確信している。AIは間違いなく起爆剤になるし、既存産業の単なるコストダウンではなく、AI自体を産業として成長させていくことについても来年から議論ができればと考えている。

○最後に、岸田内閣総理大臣より以下のとおり、挨拶があった。

【岸田内閣総理大臣】

私が G7 広島サミットで提唱した「広島 AI プロセス」の集大成となる「包括的政策枠組」が先日合意されました。生成 AI の様々なリスクへの対処を目的とした初の国際的な枠組みです。

G7 オンライン首脳会議の場でも、日本が果たした役割に対し、各国首脳から高い評価を頂きました。

AI 戦略会議の皆様方には、難しい課題を速やかに論点整理していただき、広島 AI プロセスの羅針盤を示すなど大きな貢献をしていただきましたこと、心から感謝申し上げます。

広島 AI プロセスはこれで終わりではありません。これから G7 以外の国や企業に広がっていくことが重要です。広島 AI プロセスの更なる前進を主導してまいります。

広島 AI プロセスの合意を踏まえ、国内ルールとして、AI の開発者、提供者、利用者を含む、全ての AI 関係者に対する事業者ガイドラインを策定いたします。本日御議論いただいた原案をパブリックコメントにかけた上で、来年 3 月までに策定・公表する予定です。

このガイドラインの履行確保の在り方についても、国際的な動向を踏まえ、検討してまいります。

また、AI をめぐる安全性に対する国際的認識が高まっています。英国や米国では AI の安全性研究を行う機関が創設されています。

日本としても、これらの海外機関と連携し、AI の安全性の評価手法の研究や規格作成などを行う機関が必要との考えに立ち、AI セーフティー・インスティテュートを来年 1 月めどで設立することとします。

AI の技術やビジネスは今後も変化し続けます。

AI 戦略会議では、今後起こり得ることを予測しながら、規制と利用促進を一体的に進める方策について、引き続き御議論いただきたいと思いますと思っております。

最後になりますが、委員の皆様方には、今年一年、精力的な御議論を頂きました。誠にありがとうございました。

来年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

以上